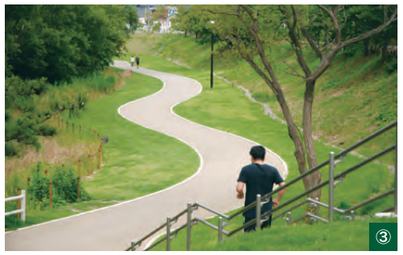
# 優　秀　賞



①公園中央部。池を一周するウォーキングコースと浮き桟橋を主動線として、広大な水面と公園内外の緑を公園の魅力として活用した ③ウォーキングコース。起点はなく、周辺街区から出入りが可能。整備前（写真②）は草木が生い茂っていた ④浮桟橋。住民が対岸のコンビニに行き交うなど生活動線となっている

## 作品概要

作品名―― 七本木池公園
所在地―― 愛知県半田市一本木町3-107
発　注―― 半田市都市計画課
設　計―― 株式会社オオバ
調査協力―― 日本物理探鑛株式会社
監　理―― 半田市都市計画課
施　工―― 八洲建設 株式会社
設計期間―― 2011年6月～2014年3月
施工期間―― 2013年11月～2015年3月
規　模―― 11.9ha
主要施設―― 散策路、ウォーキングコース（1周約1.65km）、多目的グラウンド、浮桟橋、遊具、健康遊具、ベンチ、四阿、駐車場（62台）、多目的トイレ、自転車置き場、サクラ並木（既存樹保全育成・幼木植栽）

## 作品評

本作品は、愛知県半田市の農業用ため池の外周整備であり、周辺が市街地化する中で取り残され、藪化したため池の外周を市民に開かれた公園的空間として整備したものである。

応募者は、不発弾調査から生態系調査などの様々な視点からの調査と、入念な地元とのコミュニケーションにより、計画対象地のポテンシャルと地元ニーズの把握を行っている。そしてランドスケーププランニングとして取り得る多様な手法を駆使して、市民に愛される魅力的な水辺空間を具体化した。場の状況を活かしたゾーニング、周遊園路の設置、場ごとの特徴を活かした景観と空間づくり等、派手な仕掛けは無いものの、堅実でしっかりとした成果が評価された。

⑤公園敷地は狭いところでは幅10m程度しかない（手前の草地）。隣接する住宅地と庭の木々を景観計画に取り込み、広がりのある風景づくりに取組んだ ⑥芝生広場から池と対岸を見る。緑と水の景観に住宅地が溶け込む ⑦斜面の高低差を活かした遊具。人造石研ぎ出しのすべり台は、池に飛び込むような感覚が得られることから、子どもたちに人気がある ⑧健康運動器具。ジョギングの合間に体を動かす人でいつも賑わう ⑨池の北部に位置する自然観察ゾーン。入り江の静かな環境のもとで散策やジョギングを楽しむことができる ⑩放課後に立ち寄った学生の姿。美しい景色が幅広い年代をひきつける。オープニングイベント。左から⑪吹奏楽演奏、⑫記念植樹、⑬ウォーキング大会、⑭花火大会（手筒花火）

# 七本木池公園

**株式会社オオバ**
小林高浩・小柳太二・松岡史展・木村晃一・須賀正次

七本木池は半田市の北部に位置する面積10haの市内最大のため池である。築造は江戸時代前期に遡り、地域形成に深く関わってきた。また第二次世界大戦では一帯が空襲で罹災し、池畔に「半田空襲被災の地」碑が建つ。当初は、池を埋め立ててグラウンドとする計画であったが、社会情勢の変化を受けて環境重視へと方針を転換した。

本プロジェクトは、市街地に取り残されたため池が抱える課題を、公園整備によって個性ある地域資源へと転換して、自然保全、健康づくり、交流の場づくりに取組んだものである。

### ため池をとりまく課題と潜在的価値

愛知県内や半田市内には、農地減少や市街化の進行などにより農用水源の役割を失い、管理が行き届かなくなったため池が多く存在する。七本木池でも池岸に樹木が生い茂り、不法投棄、不審者出没など、衛生・治安上の課題が山積していた。

現状の課題とポテンシャルを把握するため、各種の調査（周辺状況、自然環境、地質、不発弾の磁気探査、立木、景観など）を実施した。その結果、環境省レッドリスト掲載植物種の生育、イシガメなどの在来生物の生息など、貴重な自然環境が残っていることが判明た。また、台風シーズン等には水位を下げて年間の水位変動が大きい特徴が明らかになった。

### 美しい風景の中で健康づくりを楽しむライフスタイルの提案

テーマを「ため池を核とした水辺のオアシス」に定め、その実現の鍵として、周辺の住宅や庭木の姿を借景に取り込み、地域と調和の取れたダイナミックな風景の創出に取組んだ。広大な水面と岸辺の植生、背後の住宅と庭の木々、これらが織り成す美しい風景を眺めながら健康づくりができるウォーキングコースを提案し、設計を進めた。

一方、半田市は、協議会や地元説明会を定期的に開催し、計画周知・意見聴取に丁寧に取組み、事業の推進力となった。

### 地域活性化の核となるオープンスペース

これまで南北に長い池の存在がまちを東西に隔ててきた。新たなオープンスペースがこれを解消して、東西のまちが融和することを目指した。具体的には、池の中央部に水位変動に合わせて上下する浮桟橋を配置して歩行者動線で結んだ。そして、あそび（遊具）、鑑賞（サクラ）、憩い（芝生広場）、水辺（自然観察路）の4つのゾーンを環状に配置して、ウォーキングコースでこれらを連結した。

### 地域に愛される場所を創る

2015年3月31日、ウォーキングコースと浮桟橋を配した公園が誕生した。オープンに合わせて半田市主催のウォーキング大会、地元主催の花火大会などが行なわれ、盛大に開園を祝った。その後も口コミなどで利用者層が広がり、現在では休日・平日・昼夜を問わず大勢の市民がウォーキングに訪れ、健康づくりの拠点として親しまれている。

この反響を受けて、半田市では他の地域でもため池を活用した公園の再整備に取組むこととしており、市内全域へと拡がりを見せ始めている。

緑とオープンスペースのポテンシャルを、都市・地域・市民のために最大限引き出すステージへの移行が求められている現在、その一例として参考になればこの上ない喜びである。